

二〇一四番

我が待ちし 秋萩咲きぬ 今だにも にほひに行
かな 彼方人に

二〇一五番

我が背子に うら恋ひ居れば 天の川 夜舟漕ぐ
なる 梶の音聞こゆ

二〇一六番

ま日長く 恋ふる心ゆ 秋風に 妹が音聞こゆ
紐解き行かな